

令和6年10月 議会報告会での要望及び意見に対する回答

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
1	古江	津波避難タワーを、中京銀行跡地に整備するということだが、住宅が入り組んだところに建てず、紀望通りの百五銀行辺りの道の上に、何かしら津波をしのげるものを建てた方がいいのではないか。そうすれば、紀望通りの北側だけでなく、南側の人も避難できるし、土地代も不要になる。	津波避難タワーの整備予定地を検討していくうえで、避難場所を整備する候補地域を抽出する避難シミュレーションの結果では、中京銀行尾鷲支店付近に避難場所があると、被害減少人数が多く効果的であると示されており、このことから中京銀行尾鷲支店を選定しました。 費用面につきましては、防災・安全社会資本整備交付金などの国庫補助を活用し、なるべく市の負担がかからないよう努めております。	防災危機管理課
2	古江	古江で実験されている合同会社シーベジタブルの事業について、いまどんなことをやっているのか、わかっていれば教えて欲しい。	合同会社シーベジタブルは、海藻の陸上養殖を手掛ける高知発のベンチャー企業で、全国に生産拠点や研究施設を持っています。尾鷲拠点は九鬼駅前にあり、2019年から「すじ青のり」の陸上養殖を始め、地元の高齢者や障がい者等の雇用にも貢献されています。ここでできた商品は、市内では「夢古道おわせ」や「おとと」、「主婦の店」でも販売されています。また、大曾根地区で「はばのり」の海面養殖の試験も実施しています。 古江地区では、紅藻の培養試験を春から秋にかけて行い、夏を越えられるかどうかの試験に取り組み、秋からは、青のりの種の培養試験を行っているとお聞きしております。また、引き続き、試験成果を精査するなどして、培養試験に取り組んでいくとのことでした。	水産農林課
3	古江	市も大工などの職人を使うような事業をやらないといけない。どんどん職人がいなくなっている。震災が起こって、いざ家を建てようというときに職人がいなくなっていては困る。地域に職人がいなくなることは問題だと思う。	大工職人だけでなく、土木・建築関係の地元業者も年々減少の一途を辿っております。これは、若手人材の確保も含め、本市だけでなく全国的に大きな問題となっている状況で、災害からの復興にはこうした地元業者、いわゆる「地域の守り手」の力が不可欠ですので、国や県が中心となって、建設業界の働き方改革やICT化を積極的に進めているところです。	建設課

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
4	梶賀	先日、熊野古道センターで梶賀ハラソ祭りの企画展があった。たいへん好評でたくさんのメディアにも取り上げていただいた。なにより企画展に携わってくれた古道センター職員の熱意が強く、まちの人たちもそれにつられて一生懸命になれた。何事をするにも熱意をもってやっていただけることが大切で、梶賀ハラソ祭りなど、地域が熱意をもって取り組んでいることには、市も支援や助成をしてもよいのではないかな。	少子高齢化・過疎化の進展により、地域の伝統的な祭りへの参加者が減少し、祭りそのものの存続が危惧されていることは、喫緊の課題であると強く認識しております。地域の伝統的な祭りの灯りを消さないように、まずは情報発信の強化を図るとともに、市として地域の皆さまと歩調を合わせて、どのように支援していくことが一番良いのか、共に考えさせていただきます。	商工観光課
5	梶賀	梶賀大敷は、絶対に潰してはいけない産業だと思う。今後、もし大敷が赤字になり、地場産業として立ち行かなくなるようなことになった時、市としてはどういう対応をしてくれるのか。	大型定置網は、地区の基幹産業となっており、地区存続のためには大型定置網の経営安定が必要不可欠であることは、市としても強く認識しております。その認識に基づき、定置網経営安定化のために、多面的な事業展開を推進しております。担い手対策としては、漁業体験教室の実施、長期研修の補助、早田漁師塾の運営支援補助（早田漁師塾の受講生2名が梶賀大敷に就業、1名が現在継続中）等、ソフト面での対策を実施しており、今後も継続していきたいと考えております。また、「もうかる漁業創設支援事業」や「漁船リース事業」の活用について、漁協等関係機関と共に推進し、漁船の大型化、機械化等による漁撈（ぎょうろう）作業の効率化、軽労化、コスト削減による経営安定化を進めています。こうした就労環境、就労条件の改善が乗組員の定着促進に繋がる重要な取り組みであると考えております。加えて、主力魚種であるブリの単価向上を目的とし、知名度向上のため、出世魚にちなんだ市の入庁式における新規採用職員へのブリの贈呈や、関係機関と連携した「みえ春ぶり宣言」の活動を新たに着手したところでもあります。このように関係機関と連携し、あらゆる角度からの支援の継続、強化により、大型定置網の経営安定化について、今後も邁進してまいります。	水産農林課

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
6	梶賀	被災後の輪内地域の孤立対策について。市で各地域にゴムボートと船外機を用意してはどうか。5、6人乗り程度の大きさのものでよい。災害で、道路が寸断されて地域が孤立しても、ボートがあれば、物資を受け取りに行くこともできるし、怪我人や病人を乗せて行くこともできる。輪内地区は、ドクターヘリが下りられるところも限られている。ぜひ、災害対策用に市で各地域へのゴムボートの配置を検討してほしい。	輪内地区の孤立化対策は本市の課題の1つと認識しており、アルファ米や保存水の分散備蓄を行っているほか、温かい食事がとれるよう「まかないくん」という、炊き出し用の大きな鍋も配備しております。防災用マットや毛布など、生き残るための備蓄は配備しておりますが、ご提案いただいた孤立地域からの移動用手段としてのゴムボート配備につきましては、地域の孤立化対策の1つとして検討させていただきます。	防災危機管理課
7	須賀利	クマの目撃情報が相次いでいるが、同じクマが行ったり来たりして、回っているように思う。市なども注意喚起をしているが、殺処分してしまってもよいのではないと思う。GPSを付けて行動範囲を探るなど、今以上に対策をしっかりとっていただきたい。	紀伊半島のツキノワグマは、環境省のレッドリストに位置づけられており、三重県自然環境保全条例でも希少野生動植物種に指定されているため、法律に基づいた対応が定められております。市では、市民の生命を守る観点から、徹底した目撃情報の提供と注意喚起のほか、クマの出没が生活エリアに近い場合は、県から許可を受けて捕獲檻を設置し、法律に基づく被害防止捕獲も進めています。現在、国や県においても、ツキノワグマの生息調査や、法律の改正などを進めているところであり、市としても、法律の改正を受けて、人的被害を防止していくために踏み込んだ対策も進めてまいりたいと考えています。	水産農林課
8	須賀利	老人が多い地区においては、病院にかかる頻度も高いが、高齢者は病院まで足を運ぶのも大変。なるべくお年寄りが出歩かなくていいように、地域のコミュニティセンターと最寄りの開業医との間でオンライン診療が確立されると便利になると思うが、市としてはどのように考えているか。	先進的にオンライン診療に取り組んでいる多くの市町村は、病院が無い自治体が、無医地区や離島などから診療所の医師とオンラインでつないで診療しております。また、オンライン診療できる病状も限られていのが現状です。尾鷲市には尾鷲総合病院があり、須賀利地区には公共交通（ふれあいバス）があります。ふれあいバスの利便性を向上させるため、尾鷲総合病院までの直通の便も整備されておりますので、ぜひ尾鷲総合病院に通院し、ご利用いただきますようお願いいたします。	総合病院

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
9	須賀利	ふれあいバスが「西の浜、旧小学校前、漁協前、新浜、荷捌き場前、金助前」と須賀利町内を走っている中で、一部区間は料金が200円だが、同じ町内間なので、一律100円にしてもらいたい。	人口減少等によりバス利用者が減少する中、今後ふれあいバスの運行を維持・継続していくためには、地域の実情や運行の持続性、採算性を勘案し、より多くの人々が利用しやすい、効率的で効果的な運行体系の構築が重要であると考えております。 ご要望の件につきましては、須賀利地区におけるバスの利用状況や、他路線の運賃との兼ね合い、運賃収入が減少した場合の費用の負担の在り方等を勘案しながら、運賃改定について検討してまいりたいと考えております。	政策調整課
10	須賀利	地震が起きたら、漏電による火事が予想される。その対策として、地震が起きたら自動でブレーカーを落とす感震ブレーカーの設置を、市として、半額でもいいので、助成してもらおうことはできないのか。	三重県下各市町で、それぞれ独自の防災対策に取り組んでおられますが、本市独自の取り組みとして、地域の防災体制及び防災対策の充実強化を図るため、「尾鷲市地域防災力向上補助金制度」を整備しております。また、地域の要望に基づき、緊急度の高い箇所から順に、浸水域外への新たな避難路の敷設や、避難路への手摺の設置など、速やかに避難が行えるよう「避難路整備事業」を実施しております。引き続き、防災・減災対策を図るとともに、他市町の事例も参考にしながら、今後の地域の防災・減災対策の1つとして検討していきます。	防災危機管理課
11	大曽根	今後の議会報告会のあり方として、定例会の審議内容を話してもらうことも良いが、もう少し、地域ごとの特徴に沿うような話をしてもらってもいいのではと思う。	議会報告会の運営方法について、ご指摘ありがとうございます。ご参加いただいた皆様のご意見を参考にさせていただき、より良い報告会となるよう今後も引き続き、改善に向けて検討してまいります。	議会事務局

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
12	大曽根	火力の跡地に大型製材所を誘致することについて、進捗状況はどのようになっているのか。市民が関心をもっているところなので、随時報告してもらいたい。	大型製材工場の誘致につきましては、中部電力尾鷲三田火力発電所跡地及び燃料第一ヤードのうち、中部電力が所有する送変電施設と尾鷲市が進めるスポーツ振興ゾーンを除く企業誘致エリアにおいて、事業計画の作成が進められております。 具体的な事業者の動きとしましては、市場での競争力を確保するため、製材に適した一定量の原木調達を目的に、関係する地域の林業関係者との調整に取り組んでいるところです。 大型製材工場の誘致につきまして、大きな進展がありましたら、尾鷲市議会及び市民の皆さまに報告させていただきたいと考えております。 誘致の実現に向け、引き続き尾鷲商工会議所と連携した取り組みを進めてまいりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。	政策調整課
13	大曽根	火力発電所跡地への企業誘致について懸念している。もちろん、若者に働く場が増えればいいと思うが、そもそも、今回の誘致先の企業(大型製材所)は、若者が興味を持てるような仕事なのか。その仕事に就きたいと思う若者がいるのかと、個人的には疑問に思う。	尾鷲三田火力発電所跡地の効果的な活用を目指すおわせSEAモデル協議会においては、新たなエネルギーと豊かな自然の力で産業、観光、市民サービスを融合した拠点として企業誘致を進めております。 大型製材工場の誘致により、尾鷲の最大の魅力である豊かな自然環境を活かした第一次産業の再生、地域振興及び所得向上を図り、林業が魅力的な産業として若者から選ばれる職場、地域に誇れる事業となるよう、事業者と協議を実施してまいります。 また、本市では、地球温暖の原因となる二酸化炭素などの排出量を削減し、さらに、森林などでの「吸収」を増やすことで、プラスマイナスゼロにするという「カーボンニュートラル」に積極的に取り組んでいます。 この世界的な課題の解決につながる新しい環境価値を創出する取り組みにより、「やりがい」や「働きがい」につながる仕組みをつくり、製材を含む林業が、これからの未来を担う若者にも魅力ある職業、職場としていけるよう、積極的な取り組み、発信を行ってまいります。	政策調整課 水産農林課

	要望箇所	意見の要約	各課の回答	担当課
14	三木浦	尾鷲の教育について、子どもがいる家族向けに、うみ育・やま育を始めとする尾鷲ならではのより良い教育が受けられる部分を、市外・県外へもっと発信してはどうか。それにより、教育移住してくれる層へ訴えかけることができると思う。	本市の自然や歴史・文化を学び、地域への愛着や自己肯定感の醸成、地域とのつながりを強化することなどを目的に、ふるさと教育を実施しております。これらの事業は新聞社やテレビ局等の報道関係者に対して事前にお知らせを行い、また、SNSなどでも情報発信しており、地域内外の皆さんに本取組を知っていただくよう情報発信を強化しております。今後はさらに尾鷲ならではの教育コンテンツを情報発信するとともに、教育移住につながる仕組みも協議してまいります。	教育総務課 水産農林課
15	三木浦	自然災害に備える観点から砂防工事等をしていると思うが、自然環境にコンクリートで立ち向かっているようにも感じる。みんなの森やJクレジットに取り組んでいる尾鷲市としては、今後、景観を守る等、より自然と融合するかたちで災害に備えようという考えはあるのか。	砂防工事や急傾斜工事といった所謂予防保全工事というものは、守るべき対象(人命や財産)があるからこそ行われるもので、確かに景観に配慮した工法等も多々ありますが、コストやスピードではどうしても通常の工法に劣りますので、事業を行なう上で、人命か景観か、何を最優先とすべきか、行政と地元の方との合意形成が重要であると考えております。	建設課